

キハダ 東部太平洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*

管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近一年間の動き

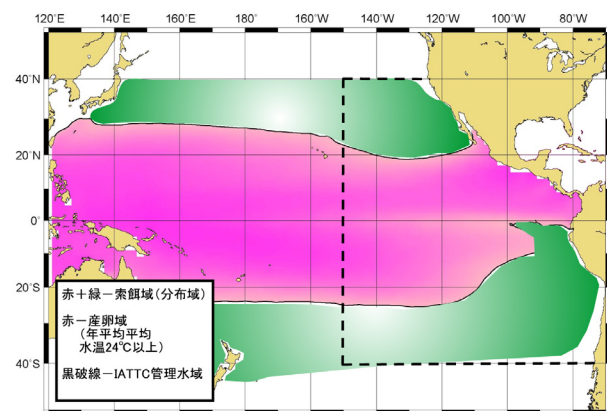
総漁獲量は 27.8 万トン(予備集計)で前年の 96 %。資源評価は 2006 年 5 月に行われ、AMSY は 28.8 万トン、2006 年当初の資源量は 41.6 万トン、努力量は AMSY 達成とほぼ同レベル。

生物学的特性

- 寿命: 7~10 歳
- 成熟開始年齢: 2~3 歳
- 産卵期・産卵場: 周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場: 熱帯域・温帯域
- 食性: 魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者: まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

漁獲の動向

1983 年の 10.5 万トンから急増し、1990 年には 30.2 万トンまで回復したが、イルカが混獲された操業で獲られたまぐろ類の不買方針を決めると、1995 年には 23.9 万トンまで減少した。1990 年以降は米国以外の国籍船の進出が目立ち、2001~2003 年は 40 万トンを越えた。2005 年は予備的な集計であるが 27.8 万トンと減少した。

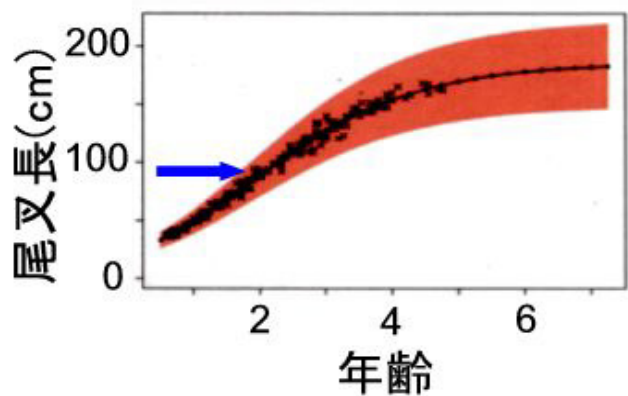


東部太平洋のキハダの分布域と産卵域



利用用途

刺身や缶詰原料



本資源の年齢と尾叉長(cm)の関係(矢印で成熟)

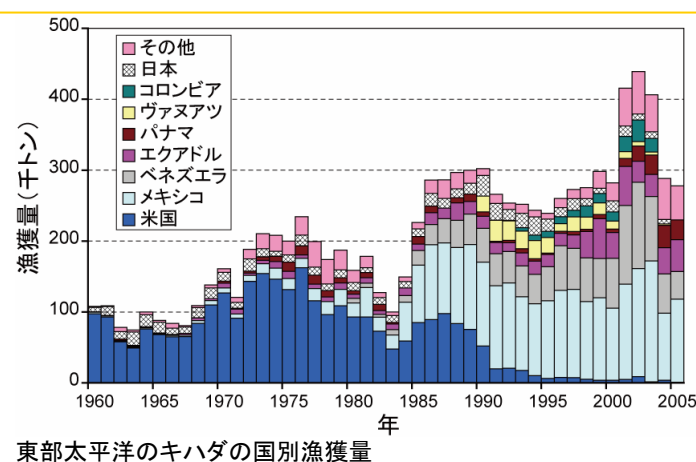
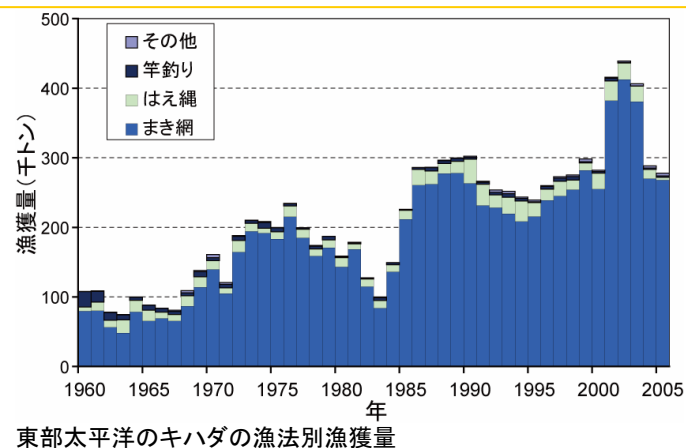
漁業の特徴

まき網が漁獲量の 9 割近くを占め、残りがはえ縄と竿釣りで漁獲されている。まき網は伝統的にイルカ付き操業を行い、流れ物付き操業は 50 cm 程度の小型魚、素群れ操業は 60~100 cm 程度、イルカ付き操業は 90~150 cm の中・大型魚を中心に漁獲している。はえ縄は、主として 100 cm 以上の中・大型魚を漁獲する。まき網漁業国はメキシコ、ベネズエラおよびエクアドル等であり、イルカ付き操業の漁場は北緯 10 度を中心とした西経 130 度以東の沿岸域に分布し、素群れ操業は沿岸部に多く、流れ物付き操業は比較的南緯側で多くみられる。はえ縄の漁業国等は日本、韓国、台湾および中国等であり、赤道を挟んだ南北 15 度を中心に操業している。

資源状態

IATTC が開発した A-SCALA と呼ばれるモデルで資源評価を行っており、我が国のはえ縄のデータは信頼性が高く、標準化された資源量指数として、資源量変動の傾向を知るのに使われている。

資源は近年の高位水準から減少したものの、比較的安定している。資源は十分に利用されており、努力量は AMS_Y レベル。平均最大持続生産量 (AMS_Y) は 28.7 万トン、 B_{AMS_Y} は 42.0 万トン、 SBR_{AMS_Y} は 0.37。これに対して、現在の漁獲量は 27.8 万トン、資源量は 41.6 万トン、 SBR は 0.41(0.33~0.50:95%信頼限界)と推定された。



管理方策

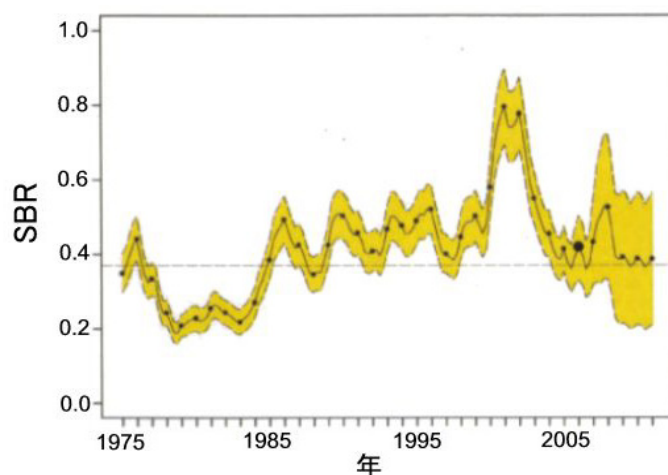
2007 年はまき網には年間 42 日間の禁漁 (8/1~9/11 または 11/20~12/31)、加えてこれに違反して獲られた漁獲物の商業取引禁止。

資源評価まとめ

- 資源評価は従来から IATTC が実施
- 資源評価モデルは統合モデルの A-SCALA を採用
- 資源は中位で、安定的である

資源管理方策まとめ

- 2007 年のまき網に 42 日間の禁漁
- 禁漁に違反した漁獲物の取引禁止



キハダ(東部太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	安定
世界の漁獲量 (最近 5 年)	27.8~43.9 万トン 平均: 36.5 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年)	0.7~1.5 万トン 平均: 1.1 万トン